**日本最初期のアスファルト道路**

リンガー邸の元オーナーであるフレデリック・リンガー(1838~1907年)は、1906年にこのアスファルト舗装道路を敷設した。リンガーは心臓病を患い、晩年には険しい丘を登って家にたどり着くのが困難だった。その小道のおかげで彼は人力車で家を行き来することができた。

19世紀には、ほとんどの道路は石や砂利で舗装されていたが、砂利道は例外的にほこりっぽく、石畳はでこぼこででこぼこだった。1900年までに、ヨーロッパの技術者たちは砂利の混合物にアスファルトやタールを加え始め、砂利を閉じ込めて道路の寿命を延ばした。日本には1870年代に砂利道が導入されたが、アスファルト舗装は1920年代まではまだ珍しかった。

1人の運転手が引く二輪馬車である人力車は、19世紀後半に日本で発明された。人力車は1920年頃まで日本国内の都市で広く使われていた「人力の手押し車」という意味で、その後自動車や電車、路面電車などに大きく取って代わられた。

--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

|  |  |
| --- | --- |
| 採用番号NO： | 023-019 |